



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小
～ 明日が楽しみな学校をめざして ～」

隈府小学校
学校だより No.19
文責 芹川博文
9月18日(金)

「校風」となる 日常の積み重ね ～ 交わす あいさつや 会話が「風」となる ～

「子どもたちが落ち着いて学習していますね」「掃除がいき届いてますね」「先生方が笑顔ですね」など、沢山の嬉しいコメントをいただきました。今週は、「学校訪問」があり、朝から一日、沢山の方々に校舎や児童・職員の様子を見ていただきました。

自分の姿は、見えにくいものです。外から見ていただき、評価していただいたり、時に厳しいご指摘をいただいたりすることは大切です。今回のように、「正式」な訪問ばかりではありません。企業によっては、社長が「お客」になって、アポなしで訪問するところもあると聞きます。

学校に置き換えるならば、何といても大事なものは、日々子どもたちとのかかわり。子どもたちは、将来の地域や社会の「未来」そのもの。毎日のあいさつや会話、声掛け、時には指導の中で、成長し自立(自律)へと向かいます。そのためには、職員も生き生きと声を掛け合い、「明日が楽しみな」学校となることが不可欠だと考えます。

保護者や地域の皆様や業者の方々、沢山の人の支えられている学校。交わす一つ一つのあいさつや会話が「風」となり、その風が「流れ」となって、いつしかその学校の「校風」となることを心したいと思います。日常の積み重ねの大切さを改めて意識した一週間でした。



「外遊び」のススメ

～ 思えば 私が子どもの頃、大人はもっと遊んでいた!? ～



「朝からこんなに子どもたちが遊んでいる学校は、久しぶりに見ました」。このコメントも、今回の訪問でいただいたものです。朝だけでなく、昼休みも、そして、放課後、いったん家に帰って学校に遊びに来る子どもたちも沢山います。

外遊びは、子どもにとって「呼吸」のようなものだと思います。朝から外に出て遊び、体を動かして、気持ちよく1時間目が始まる子がいます。昼休みも、先日まで暑さで遊べなかった日は、本当に残念そうでした。まさに「酸欠状態」で、イライラ、ダラダラとの闘いの子も。

遊びは、大人にとっても大切です。思えば、私が子どもの頃は、大人がもっと「遊んでいた」ように記憶します。山ではメジロやホオジロを捕まえ、手作りの鳥かごに入れていた祖父。川でウナギ取りの罠を仕掛けていた近所のおじさん。「イカダ作ったぞ。乗りに来んかい」と誘う叔父。秋冬の季節には、キノコ(松茸も)や山芋を探し求め、「採れた場所は教えられん」と、嬉しそうに話しておられた姿。そんな大人たちの姿がありました。私の父も、私が小学生の時、竹馬を作ってくれたことがありました。竹を焼いて曲げ、穴をあけて差し込み、竹馬が完成した時は感動しました。子ども心に、「大人は遊びの天才」という憧れがありました。

10年ほど前、フィリピンに行った時、夕方になると仕事を終えた大人たちが、路地でバスケットボール(3対3)をしていた光景も思い出します。そのレベルが結構高く、小さい子どもたちは憧れの眼差しで座って眺めています。中学生くらいになると入れてもらえ、誇らしげに一緒にプレーします。大人が本気で遊ぶ姿を見て育つ子どもたちの目は、輝いて見えました。

明日からの、シルバーウィークの5連休。保護者の方の中には、釣りやスポーツ、キャンプなどの計画がある方もおられるかもしれません。きっと子どもたちの記憶に残ることでしょう。

子どもたちも、安全で充実した5連休を過ごし、また学校で会えるのを楽しみにしています。